

目 次

はじめに	2
I 昭和58年度 管理運営概要	3
1. 組 織	3
2. 予 算	4
3. 事業計画	5
II 昭和57年度 管理運営概要	
1. あゆみと日誌抄	6
2. 入館状況	9
III 昭和57年度 事業概要	
1. 常設展	10
刀剣コーナー	
2. 貸ギャラリー	10
第9回美濃陶芸展	
3. 移動展	11
4. 特別展	12
(1)高賀山の信仰	12
(2)ふるさとの植物	14
(3)東洋の貨幣	16
5. 資料紹介	18
(1)郷土の偉人・梁川星巖	18
(2)古生代の化石	19
6. 資料調査収集活動	20
(1)人文部門	20
(2)自然部門	23
7. 教育普及活動	26

はじめに

当博物館は常緑の松林の中にその白亜の姿を調和させています。これは、本県が特に自然の恩恵に浴していることの一つの象徴だと思います。現在、自然と文化との調和を如何にして図ってゆくかということは、今日的課題といわざるをえません。この点からも、当館は本県の人文、自然兩分野にわたる諸資料を収集、公開し、広く県民の学習の場となり得るよう努力し、また、文化財保護の精神を涵養することに役立て、文化の発展に寄与することにおいて、この課題にこたえてまいりました。

当館は昭和51年5月、総合博物館として開館し以来7年を経過いたしました。去る5月を以て80万人の入館者を記録することができました。このことは言うまでもなく、県民各位の当館に示す関心度の高さを示すものであって、私ども館運営に携わる者としましては、まことに心強く、意を強くするものであります。

さて、今日生涯教育の必要性が強調され、それには種々学習の機会を提供する必要性が説かれています。当博物館におきましても、社会教育の場としての役割りを果たすことのできる施設として、極力内容充実に努めてまいりました。

昭和57年度におきましては、特別展、資料紹介展、移動展、調査研究、講演会、各種の教室等の教育普及事業など、25の事業を実施してまいりました。いずれも、各方面からのご援助を得て、成功裡に所期の目的を達することができました。

今年度は、まず春の特別展「岐阜県の考古遺物」をテーマに県内における過去十年間にわたる発掘調査の成果を展示しました。極めて盛況のうちに幕を閉じることができましたこと、各位のご援助のたまものと感謝いたしております。夏には「長良川」、秋には「郷土の生んだ先覚者」の特別展を企画しております。

私どもは、絶えず博物館人としての使命を自覚し、調査研究はもとより県内に埋れている文化財の発掘、展示活動、各種講演会、教室等を開催することによって、教育普及事業を一層推し進めてまいりたいと考えています。

岐阜県博物館報第6号の発刊を機に、各位のご指導とご鞭撻をお願いいたします。

昭和58年7月1日

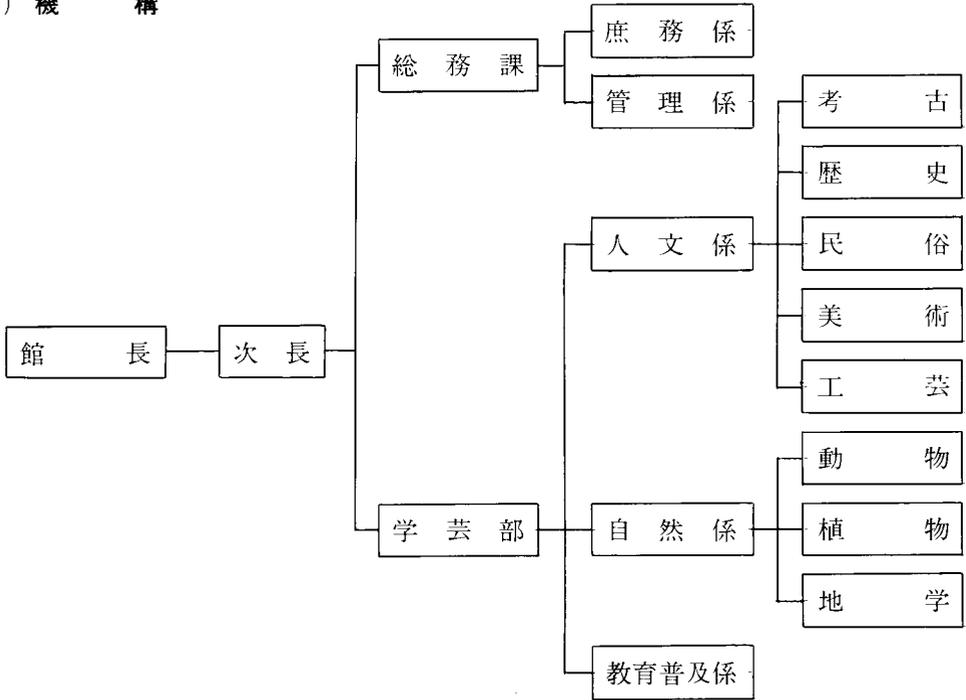
岐阜県博物館長

吉 本 幹 彦

I 昭和58年度 管理運営概要

1. 組織

(1) 機構



(2) 職員

昭和58年4月1日現在

職名	氏名	職名	氏名
館長	吉本幹彦	○学芸部	
参事(兼)次長	夏目文夫	学芸部長	川崎立夫
○総務課		主任学芸主事(兼)人文係長	国本日出登
主幹(兼)総務課長	西村義郎	学芸主事	早野博之
主任主査(兼)庶務係長	中村惇章	"	片野雅夫
主事	服部千章	教育主事	徳松正廣
"	早川つな	学芸主事	小川和英
技師	林作男	主任学芸主事(兼)自然係長	富田保男
管理係長	吉原敏彦	学芸主事	富原芳雄
業務嘱託	後藤幸晴	"	柴田佳章
"	長谷川恵子	"	小野木三郎
"	葛木伸子	学芸嘱託員	小野伸也
"	酒井真由美	教育普及係長	中島良太
"	各務章子	学芸主事	中井昭彦
"	成瀬清美	学芸嘱託員	中井鉦次
"	鈴木智子		

(3) 博物館協議委員 (アイウエオ順)

◎印……会長 ○印……副会長

昭和58年6月1日現在

氏名	住所	現職
奥村保	岐阜市加納鉄砲町1-17	岐阜県公民館連合会長
片桐孝	岐阜市高森町5-3	岐阜県私立中学高等学校協会会長
坂倉又吉	羽島市竹鼻町2733	千代菊(株)取締役社長
住積二郎	岐阜市長良福泉53	岐阜県中学校長会長
玉田幸人	岐阜市萱場町中越599-11	岐阜日日新聞社専務取締役
◎土屋齊	大垣市荒尾町1077	(株)大垣共立銀行取締役頭取
成瀬文平	岐阜市長良2435-83	岐阜県小学校長会長
野村忠夫	稲沢市下津町東国府34	岐阜大学教育学部教授
◎林金雄	各務原市那加雲雀町37	大垣女子短期大学教授
村井実	岐阜市日光町3-2	岐阜県高等学校長協会会長

2. 予 算

当初予算額 (単位千円)

区分	年度		昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度
	内 訳				
歳入	国庫支出金		900	500	—
	博物館使用料		11,567	9,198	11,023
	諸収入		278	281	281
	合計		12,745	9,979	11,304
歳出	博管理 物運 館費	運営費	25,612	24,725	26,745
		施設管理費	87,695	80,662	80,068
		博物館協会費	260	260	284
		計	113,567	105,647	107,097
	博 物 館 事 業 費	常設展示費	16,279	15,279	19,729
		特別展示費	6,500	6,500	6,500
資料収集管理費		1,300	1,300	1,300	
教育普及活動費		2,300	2,300	2,300	
調査研究費		—	600	600	
	計	26,379	25,979	30,429	
	合計		139,946	131,626	137,526

3. 事業計画

展示活動

	期 間	主 な 展 示 内 容	
常 設 展		1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと美術工芸をテーマとして展示。自然スタディーコーナーは月別、刀剣コーナーは年4回展示替え	
(特別展) 岐阜県の考古遺物	4/22～5/29	原始から中世にいたる考古遺物を通して郷土の歴史を紹介	
(") 長 良 川	7/19～9/4	「流域の自然をたずねて」をサブテーマに、動物・植物・地学の分野から実物資料や生態写真などで紹介	
(") 郷土の生んだ先覚者	10/7～11/23	新しい時代を築きあげていった郷土の生んだ先人たちの業績を紹介	
移 動 展	8/2～8/15	土岐市立文化会館	県内にみられる植物やほ乳動物を、押し葉標本やはく製標本で紹介
	8/18～8/31	垂井町立文化会館	
(資料紹介展) くらしと文化	12/15～1/29	生活の中に生み出された民具などを通して文化の流れを紹介	
(資料紹介展) 植物のルーツをさぐる	2/10～4/8	日本と北アメリカの植物を通して分布のふしぎさを紹介	

教育普及活動

事 業 名	期 日	対 象	定 員	内 容
講 演 会	5/8	一 般	100人	「繩文人の生活」 (信州大学教授 大 参 義 一 氏)
	8/7	一 般	100人	「長良川のアユ」 (岐阜大学教授 和田 吉 弘 氏)
	10/23	一 般	100人	「新しい時代を築いた人々」 (神奈川大学教授 丹 羽 邦 男 氏)
人 文 教 室	5/22	中 学 生 以 上 般	80人	「人骨は語る」 (京大霊長類研究所教授 江 原 昭 善 氏)
自 然 教 室	6/26	中 学 生 以 上 般	80人	「化石が語る郷土のおいたち」 (名古屋大学教授 森 下 昌 氏)
	7/10	中 学 生 以 上 般	80人	「岐阜県の鳥・野鳥観察のたのしみ」 (日本野鳥の会会員 丹 羽 宏 氏)
	8/28	中 学 生 以 上 般	80人	「森林のめぐみとわたしたち」 (岐阜大学教授 大 内 幸 雄 氏)
刀 剣 教 室	6/5・11/20	中 学 生 以 上 般	30人	「刀と人生・刀の手入れ」 (岐阜県重要無形文化財保持者 伊 佐 地 勉 可 氏)
岐阜県の歴史教室	5/15・7/24 9/25・11/27	中 学 生 以 上 般	30人	藩のしくみ・村のしくみ・農民騒動・水と農村などをテーマとして、古文書を読み歴史をさぐる
親 子 考 古 教 室	5/29	親 小・中 学 生 子 生	30人	不破の関の発掘をさぐる
	8/14・8/21	親 小・中 学 生 子 生	30人	火おこし器をつくろう
自 然 観 察 教 室	4/24・10/9	親 小・中 学 生 子 生	30人	百年公園の植物しらべ
	6/12・11/13	親 小・中 学 生 子 生	30人	百年公園の昆虫しらべ
手 づ くり 教 室	9/11	小・中 学 生	30人	竹細工 (竹細工師 石 原 文 雄 氏)
	12/4	小・中 学 生	30人	版画あそび
	12/18	小・中 学 生	30人	しめなわづくり (大 野 仁 久 氏)
人 文 移 動 教 室	10/16	一 般	23人	先覚者のふるさとを訪ねて (西濃方面)
自 然 移 動 教 室	11/6	小・中 学 生 般	23人	飛騨川流域の自然を訪ねて (地質めぐり)
夏 休 み 研 究 相 談 室	7/26～7/30 8/25～8/28	小・中 学 生	—	夏休みの研究やその整理のしかたについて相談をうける
自 然 サ ン デ ー 教 室	4/17・5/15・6/19・7/17 8/21・9/18・10/30・11/20		入 館 者	自然展示室のコーナーの解説
自 然 観 察 会	7/23～7/24	小・中 学 生 子 生 親 と	40人	蛭ヶ野の自然観察 (野鳥・昆虫・植物)
日 曜 映 画 会	4/24～5/29		入 館 者	「ぼくたちの古代発見」「日本の古墳」16mm
	7/24～9/4		150人	「長良川の自然をたずねて」スライド
	10/9～11/20			「新しい時代を築いた人々」スライド

II 昭和57年度 管理運営概要

1. あゆみと日誌抄

開館7年目、吉本県企画部長を4代目の館長に迎え、新たな決意のもとに充実発展を期した年であった。この一年の間に、県では岐阜県美術館がオープン(57・11・3)、また近隣では愛知県犬山市と岐阜県可児市にまたがる広大な丘陵地に民間資本で、野外世界民族博物館「リトルワールド」がオープンした。(58・3・18) また、県内では関ヶ原歴史民俗資料館、不破関資料館(57・9・16)をはじめ、大垣市歴史民俗資料館(57・10・5)、蛭川村郷土資料(11・3)などが続々と開館。58年3月、日本博物館協会発行の「わが国の博物館の現状」によると、博物館の設置状況は昭和55年度で全国第3位(1位北海道、2位東京)に位置されており人口10万当りの施設数では、他府県をはるかに抜いて全国1位の座を示めている。当県博としては県内唯一の総合博物館として一層の充実発展を期し、中央博物館としての機能を十分発揮するよう努力しなければならない。

57年度は入館者数94,014人と前年度をやや下まわり、年間10万人の目標に達しなかったのは残念であった。県美術館オープンの影響も多少感じられるが、一層のPRが必要であろう。

4月25日には開館以来の入館者70万人を記録した。なお、団体入館者(40,243人)の40%(16,293人)が愛知県を主とした県外の団体であり、県外への積極的なPRも必要であろう。

特別展は春に「高賀山の信仰」、夏に「ふるさとの植物」、秋に「東洋の貨幣」の三本立。詳細は後述されるが、春、秋ともに入館者は2万人を越し、ことに秋の「東洋の貨幣展」は、27日という短期間にもかかわらず入館者は2万1千人を越え、1日平均777人という過去最高を記録したことは、搬入・搬出・監視など多くの苦労が伴っただけに大きな喜びであった。上松知事も興味ふかげに観覧した。

資料紹介展は、「梁川星巖」と「古生代の化石」。星巖の気概に触れ、自然界の神秘に瞳をこらす姿が見られ、いずれもやりがいのあった

紹介展であった。

なお、美濃陶芸協会、中日新聞社主催の「美濃陶芸展」は58年度から美術館に移り最後の開催になったが、本県陶芸作家の意欲的な息吹を感じ、好評であった。(6月)

1階ロビーのスタディコーナー(自然)は好評のため継続展示、54年から開設の視覚障害者コーナーもユニークな展示としてさらに充実をはかり、親しまれている。

教育普及活動では、特別展関連の「講演会」のほか、「自然教室」「人文教室」「移動教室」「体験学習会」などを引き続き開催した。ことに、「奥美濃の高賀山六社めぐり」(人文)白川村大窪の民宿に泊りこんで行った野鳥・植物などの「自然観察教室」は、企画の発表とともに申込み殺到という状況で、現地での体験的学習のニーズの強さをあらためて知らされた。

その他、当館学芸員の指導による「自然観察教室」「子ども考古教室」「夏休み学習相談」「岐阜県の歴史教室」「自然サンデー教室」などを新設、活発な普及活動を展開した。

移動展は、高山市と大垣市で「ほ乳動物と帰化植物展」。いずれも好評で、さらに県博らしい充実した移動展を志向する必要があるだろう。

なお、かねての懸案だった県博の協力会「県博フレンドの会」を8月に発足した。人数を制限した発足だが、さらに強力な組織となるよう推進したいと思う。

昭和57年度から新しく発足した事業として調査研究事業がある。博物館の諸活動の基礎は調査研究にあり、その実現は長年の懸案だけに喜ばしい。初年度は、「濃霧 諸藩の藩主関係資料の実態調査研究」(人文)、「飛驒川上流域の自然調査」(自然)に取りくんだが、その実績は年度末発行の「岐阜県博物館調査研究報告書」第4号で発表した。

なお、本年度の実物購入は刀剣「直江志津」一振、複製では増長天立像(岐阜市済法寺)と高山植物、特殊植物8点を製作した。また、関市の桑山隆氏(刀匠名「兼高」)から精魂込め

て作刀した新刀の寄贈を受けた。年度末には、
面目一新した当館概要書第3刷目を発行。

日 誌 抄

4・1 人事異動

転出	主任主査兼庶務係長	村地 昭義
	主任学芸主事兼自然係長	山田 康夫
	教育普及係長	鈴木正太郎
	学芸主事	二村 智
	教育主事	佐野 正隆
	主 事	古田 信彦
転入	館 長	吉本 幹彦
	主任主査兼庶務管理係長	中村 惇
	主任学芸主事兼自然係長	富田 保男
	教育普及係長	中島 良太
	学芸主事	早野 博之
	”	平井 昭彦
新任	主 事	山下 弘子
	業務嘱託員	各務 章子
	”	成瀬 清美

4・1 「博物館だより」第17号発行

11 駐日オーストラリア大使ジェームス・
プリムソル卿、一等書記官ドナルド・
ドビンソン氏等一行来館

18 自然サンデー教室

23 特別展「高賀山の信仰」開幕（5月31
日まで）

25 入館者70万人目 記念品贈呈

29 自然観察教室「百年公園の植物しらべ」

5・2 人文移動教室「奥美濃の高賀山六社めぐり」

7 岐阜県博物館協会総会

9 講演会「高賀山の信仰」
岐阜県博物館協会第1回セミナー（於
当館）

12 東海六県副出納長会議一行来館

16 第1回歴史教室
自然サンデー教室

20 市町村文化財担当者管理講習会（於
当館）

30 自然教室「陸貝の生活」

6・2 オーストラリア親善交流使節団一行来

館

6・10 「美濃陶芸展」開幕（20日まで）

13 自然サンデー教室

16 東海三県出納長会議一行来館

18 博物館協議会

27 自然教室「みずなみの海」

7・1 「博物館だより」第18号発行

「岐阜県博物館報」第5号発行

4 自然観察教室「百年公園の昆虫」

8 ブラジル研修生一行来館
愛知県副知事・企画部長来館

15 国立歴史民俗博物館展示課長来館

16 徳島県議会農林委員会委員一行来館

18 第2回「歴史教室」

20 特別展「ふるさとの植物」開幕（9月
5日まで）

25 自然サンデー教室

27 夏休み学習相談会（29日まで）

28 大分県議会文教委員会委員一行来館

8・1 自然観察会（於白川村大窪）

2 博物館実習生1名（12日まで）

3 中部管区行政監察局長来館

5 第1回子ども考古教室

8 講演会「ふるさとの植物」
博物館フレンドの会発会



（入館70万人目）



（オーストラリア大使来館）

- 8・12 第2回子ども考古教室
- 13 文部省職業教育課長来館
- 15 自然サンデー教室
- 18 移動展高山会場開幕（於高山市立図書館、24日まで）
- 19 第3回子ども考古教室
- 22 体験学習会「竹細工づくり」
- 25 夏休み学習相談（26日まで）
- 9・1 「博物館だより」第19号発行
- 9 移動展大垣会場開幕（大垣市文化会館17日まで）
- 17 川崎市博物館建設調査委員一行来館
- 19 第3回歴史教室
自然サンデー教室
- 10・1 特別展「東洋の貨幣」開幕（31日まで）
- 3 自然サンデー教室
- 4 岐阜・愛知・三重3県博物館協会交流研究会（於当館）
- 11 講演会「貨幣の歴史」
- 16 上松知事特別展観覧



（上松知事来館）

- 17 自然観察教室「百年公園の昆虫」
- 21 刀剣評価委員会（県庁）
- 26 東海財務局長、全国過疎地域振興連盟事務局長等来館
- 31 人文教室「美濃の諸藩と藩札」
米国コロラド州ボルダー学区教育長夫妻等来館
- 11・2 岐阜県美術館開館
- 7 自然教室「岐阜県の天然記念物」
- 12 山形県天童市長一行来館
- 14 自然移動教室「地質めぐり」

- 第4回歴史教室
- 11・21 自然観察教室「百年公園の植物」
- 28 自然サンデー教室
- 12・9 大阪府都市計画協議会委員一行来館
- 16 資料紹介展「染川星巖」開幕（1月30日まで）
- 19 体験学習会「しめなわづくり」
- 58年
- 1・26 総合防火訓練
- 2・9 東京国立文化財研究所化学研究室長・東京国立博物館東洋課専門研究員来館
- 11 資料紹介展「古生代の化石」開幕（4月3日まで）
- 16 博物館協議会
- 24 博物館・美術館・図書館・歴史資料館四館連絡会議（於当館）
- 3・1 岐阜県博物館概要書第3版発行
- 6 博物館フレンドの会
- 16 文化庁記念物課花井調査官来館
- 17 東海財務局長、岐阜財務局長
岐阜裁判所長来館



（刀剣受納式）

- 30 刀剣受納式（関市桑山 隆氏寄贈）
- 31 「岐阜県博物館調査研究報告書」第4号発行

退職

次長	小野 治道
主事	山下 弘子
学芸嘱託員	国光 溢夫
業務嘱託員	谷口真由美

2. 入館状況

今年度は、年間300日の開館日数を数え入館者総数は94,014人であり、1日平均の入館者は313名であった。

また、月別の入館状況をみると、春期の4月と5月、秋期の10月と11月の4か月で全体の約60%を占めているのに気付く。

なお、1日の入館者が最も多い日は、例年のごとく5月の連休中であり5月5日に2,388人の入館者数を記録している。

開館以来、毎年ほぼ10万人のペースで積み重

ねられてきている入館者数であるが、4月25日に70万人目の入館者を迎えている。

団体入館者についてみると、433団体、40,243人で総入館者数の約43%にあたり、昨年と比較すると7%の増である。これを県内外別にみると県内が311団体、23,950人で全体の60%、県外では愛知県が約39%と群を抜いている。

特別展の入館状況については、通算開催日数は101日で53,159名であり、1日平均526人であった。春夏秋と3回開催した特別展のうち、秋の「東洋の貨幣」展は、今年度の各特別展のうち最高の21,004人の入館者を見ている。

(1) 博物館入館者数

月別	小中生	高大生	一般	計	開館日数	1日平均
4月	3,028人	1,166人	4,016人	8,210人	25日	328人
5月	5,913	4,310	7,167	17,390	26	668
6月	1,955	554	3,931	6,440	26	247
7月	2,313	251	2,599	5,163	27	191
8月	3,048	397	4,346	7,791	26	299
9月	2,396	133	2,942	5,471	24	227
10月	14,027	944	6,033	21,004	27	777
11月	7,049	274	3,900	11,223	23	487
12月	235	59	1,119	1,413	23	61
1月	657	89	1,628	2,374	23	103
2月	574	132	1,720	2,426	23	105
3月	2,393	193	2,523	5,109	27	189
合計	43,588	8,502	41,924	94,014	300	313

(2) 特別展期間中の入館者数

特別展名	期間	小中生	高大生	一般	計
高賀山の信仰	57. 4.23～57. 5.30	7,244人	4,647人	8,549人	20,440人
ふるさとの植物	57. 7.20～57. 9. 5	4,787	615	6,313	11,715
東洋の貨幣	57.10. 1～57.10.31	14,027	944	6,033	21,004
合計		26,058	6,206	20,895	53,159

III 昭和57年度 事業概要

1. 常 設 展

(1) 刀剣コーナー

第 一 期	第 二 期	第 三 期	第 四 期
刀 無銘直江志津	刀 無銘伝左	太刀 銘長谷部国信	刀 無銘志津
刀 銘濃州赤坂住兼元	刀 銘氏房入道作	刀 金象菫銘国信	刀 無銘直江志津
刀 銘兼基	刀 銘備前国住長船源	本阿弥(花押)	短刀 銘兼直
刀 銘兼定	兵衛尉祐定作	短刀 銘和泉守兼定	刀 銘濃州赤坂住兼元
短刀 銘濃州関住兼房	天正四年八月日	短刀 銘兼常	槍 銘兼元
刀 銘兼見	刀 銘賀州住兼若	脇指 銘兼房作	太刀 銘兼光
刀 銘兼光	刀 銘備中守藤原清宣	刀 銘備州長船勝光	太刀 銘波平行安
脇指 銘備中水田住国重	於美濃関作之	永正十年八月日	金象菫銘禹渡海安
	脇指 銘伯耆守藤原信孝	刀 銘岩捲氏信	全加藤主計守清正
	刀 銘伯耆守藤原汎隆	短刀 銘長道	槍 銘九州肥後国同田
	刀 銘月山貞吉造之		貫信賀作
	嘉永三年二月日		天正十九年八月日

2. 貸ギャラリー

(1) 第9回美濃陶芸展

会期 6月10日(木)～6月20日(日)

主催 美濃陶芸協会・中日新聞社



美濃焼の集大成的内容の第9回美濃陶芸展を共催で行った。この美濃陶芸は、遠く桃山時代から受け継がれ、日本人の心に生きており、国内はもとより海外からも注目されている。また、この展示によって、美濃地方の作家とその作品の現状を紹介しており、美濃陶芸界が伝統を生



かした新しい創造に向って前進している姿をよみとることができた。出品作品としては、人間国宝・荒川豊蔵氏の作品など、同協会に所属する作家78人が丹精した作品80点近くを展示した。

陶芸愛好家達は、各作品に目を奪われてくいるように観賞していた。

賛助出品「九谷意石庭之図平鉢」荒川豊蔵(国重要無形文化財)「赤地金欄手葉文水指」故加藤幸兵衛

3 移動展



(高山展示会場)

岐阜県博物館の収蔵資料を紹介し、郷土の文化への関心を高めてもらうために、高山市、大垣市で「県内に生息するほ乳動物」や「身近なものになった帰化植物」の標本・資料・調査研究の成果を紹介し、ほ乳動物や帰化植物についての基礎知識の普及をはかることを目的として移動展を実施した。

高山移動展

会期 昭和57年 8月18日～24日
会場 高山市立図書館（視聴覚室）
入場料 無 料
後援 高山市教育委員会
入場者 1,011人

大垣移動展

会期 昭和57年 9月9日～17日
会場 大垣市立文化会館
入場料 無 料
後援 大垣市教育委員会
入場者 1,565人

展示内容

《県内に生息するほ乳動物》

①はく製標本 約20点

モグラ科・ネズミ科・ヤマネ科・ウサギ科
イヌ科・カピロミス科

②骨格標本

ニホンカモシカ・ニホンイノシシ

③写真 約7点

ホンシュウモモンガ・ホンドタヌキ・ムササビ・ニホンツキノワグマ・ニホンリス・ニホンザル

④解説用パネル

趣旨パネル等 約7枚

《身近になった帰化植物》

①帰化植物とは

古い帰化植物・文明開化の帰化植物

②戦後派の帰化植物

日本のものと比べてみよう・猛威をふるう
帰化植物・逸出帰化・ごく新しい帰化植物
外国に住みついた日本からの帰化植物

③帰化植物はなぜふえる

帰化植物の特性・身のまわりで調べてみよう

以上展示内容を、実物標本120点、写真30枚、図表・解説パネルで構成し調査研究成果の一部を紹介した。

当館の収蔵資料紹介を今後も各地で移動展として開催していく予定である。



(大垣展示会場)

入場者の感想文より

・この移動展で、初めていろいろな動物を見ることができました。思っていたより少なかったけれども、いろいろなことがわかって勉強になりました。動物はみんな強そうだし、かわいらしく感じました。また来年もぜひやってほしいと思います。（大垣市内小学校3年生）

・高山での初めての移動展を見せていただき、大変参考になりました。動物や植物に対していろいろ考えさせられました。動物や植物も自然に住みよい環境に生息するものと思います。私達も山林を愛し、広く自然を大切にしていかなければならないと思います。（高山市一般）



展示美術品・資料一覽

展示美術品・資料		文化財 指定別	所 蔵	展示美術品・資料		文化財 指定別	所 蔵
1	高賀宮記録	県重文	高賀神社蔵	37	不動明王像	県重文	高賀神社蔵
2	美濃国高賀宮御記録銘箱	県重文	高賀神社蔵	38	木地師資料・杯		小椋柱氏蔵
3	絵馬・藤原高光妖怪退治図		高賀神社蔵	39	木地師資料・文書		川島晃氏蔵
4	絵馬・藤原高光妖怪退治図		星宮神社蔵	40	木地師資料・繪旨箱		川島晃氏蔵
5	伝藤原高光直筆和歌		光国寺蔵	41	棟札		滝神社蔵
6	円空作・藤原高光像		星宮神社蔵	42	獅子頭		金峰神社蔵
7	粥川党系図		念興寺蔵	43	雨乞資料		金峰神社蔵
8	隨身・女神像	県重文	高賀神社蔵	44	雨乞の歌		後藤正朔氏蔵
9	隨身・男神像	県重文	高賀神社蔵	45	円空使用錫杖		後藤三郎氏蔵
10	隨身・女神像	県重文	高賀神社蔵	46	円空使用硯・硯箱		後藤三郎氏蔵
11	隨身・男神像	県重文	高賀神社蔵	47	円空歌集	県重文	高賀神社蔵
12	隨身・女神像	県重文	高賀神社蔵	48	円空作・狛犬	県重文	高賀神社蔵
13	大船涅槃経	県重文	新宮神社蔵	49	円空作・十一面観音立像	県重文	高賀神社蔵
14	大船若波羅密多経	県重文	高賀神社蔵	50	円空作・善女竜王立像	県重文	高賀神社蔵
15	大船若波羅密多経	県重文	高賀神社蔵	51	円空作・秋葉大権現像		秋葉神社蔵
16	大船若波羅密多経	県重文	高賀神社蔵	52	円空作・青面金剛像		若宮八幡神社蔵
17	大船若波羅密多経		星宮神社蔵	53	円空作・八面荒神像		愛宕神社蔵
18	大船若波羅密多経		星宮神社蔵	54	円空作・不動明王立像		愛宕神社蔵
19	経櫃	県重文	高賀神社蔵	55	粥川邑高賀山星之宮并六所御 宮由来記(写)		後藤正朔氏蔵
20	銅鏡	県重文	高賀神社蔵	56	高賀山粥川寺縁起(写)		古川藤雄氏蔵
21	銅鏡	県重文	高賀神社蔵	57	高賀山星宮神社由来(写)		古川藤雄氏蔵
22	銅製錫杖頭	国重文	新宮神社蔵	58	星宮虚空蔵由来記略(写)		古川藤雄氏蔵
23	鰐口	国重文	新宮神社蔵	59	濃州郡上高賀山星宮縁起(写)		古川藤雄氏蔵
24	懸仏・聖観音菩薩坐像		星宮神社蔵	60	巖新宮大権現之伝記(写)		古川藤雄氏蔵
25	懸仏・観音菩薩坐像		星宮神社蔵	61	武儀郡高賀神社縁起(写)		古川藤雄氏蔵
26	懸仏・薬師如来坐像		星宮神社蔵	62	粥川山虚空蔵菩薩縁起(写)		古川藤雄氏蔵
27	懸仏・虚空蔵菩薩坐像		星宮神社蔵	63	祭礼舞楽面		星宮神社蔵
28	懸仏・虚空蔵菩薩坐像	国重文	新宮神社蔵	64	星宮御札・版木		星宮神社蔵
29	懸仏・阿弥陀如来坐像	国重文	新宮神社蔵	65	絵馬・武運長久		星宮神社蔵
30	虚空蔵菩薩坐像		本宮神社蔵	66	鰻		洞戸小学校児童
31	虚空蔵菩薩坐像		本宮神社蔵	67	高賀山麓立体模型		洞戸北小学校児童
32	地藏菩薩坐像	国重文	新宮神社蔵	68	版画・藤原高光妖怪退治図		美濃中学校生徒
33	虚空蔵菩薩坐像	県重文	高賀神社蔵	69	版画・藤原高光妖怪退治図		和良小学校児童
34	地藏菩薩立像		金峰神社蔵	70	版画・藤原高光妖怪退治図		中井信雄氏蔵
35	蔵王観現像		金峰神社蔵	71	修験者衣装		奈良県金峰山寺蔵
36	蔵王観現像		金峰神社蔵	72	修験信仰資料		

(2) るさとの植物～分布のなぞをさぐる～

7月20日～9月5日

日本列島の中央部に位置し、美濃平野部から飛騨山間部まで、高度差の大きい岐阜県は、植物社会も変化に富み、各要素植物の分布の接点となっている。しかし、自然に恵まれ植物の宝庫だと云われていても、具体的に何がどのように豊かであるかは、あまり知られていない。そこで、◎日本列島の中での「特色ある岐阜県の植物界」を、分布地理学的に浮きぼりにし、岐阜県の植物学的な特異性に気づかせ、郷土への愛着を深める。…を展示の中心課題とし、

- (1)身近な植物界にも、未知な事実が多くあることに気づかせ、植物への関心を高める。
 - (2)岐阜県内でみられる分布地理学的な事実とその不思議さに気づかせる。
 - (3)日本列島の縮図ともいえる岐阜県の植物社会を正しく理解させ、郷土への愛着を深める。
- 以上のように三段階のねらいを設定し、展示構成は以下のようにした。

《展示構成の概要》 () 内の数字は展示標本数

全体導入……コブシの花はどこに (3)

導入……分布の事実に見向きよう

- ①身のまわりの雑草 (51)
- ②外国のタンポポがふえています (11)
- ③くわしく観察してみると (11)
- ④ツツジのなかま (23)
- ⑤飛騨地方のサクラ類 (9)
- ⑥注目すべき植物たち (20)

▼二階ロビーの看板と導入展示



各論……入りまじったふるさとの植物

- ①スミレを知ってますか (24)
- ②アザミを知っていますか (17)
- ③北方寒地性植物の南限地です (20)
- ④日本海側(多雪地)の植物があります (24)
- ⑤東濃地方には珍しい植物が残っています (20)
- ⑥ブナ林は温帯の代表です (26)
- ⑦暖地性植物の北限地です (25)
- ⑧シダ植物の世界 (68)

まとめ……日本列島の縮図～岐阜県

- ①日本列島の植生と岐阜県
- ②岐阜県の植物生態分布地理のまとめ
- ③いくつ名まえが云えますか (10)

※展示資料数

おし葉標本 362点、実物大乾燥標本(県内産アザミ類、帰化植物、ヤナギラン、ウラジロなど) 20点、植物生態カラー写真(四つ切以上) 50枚、井波一雄著「日本スミレ図譜」のスミレ写生図版の原画10点、複製植物標本8種(オオバキスミレ・エイザンスミレ・スミレサイシン・ナガバノスミレサイシン・サクラスミレ・ナガバノタチツボスミレ・キバナシャクナゲ・ハクサンイチゲ)

※展示上の留意点

中心となる展示資料は、おし葉標本である。これは、本来研究用として形態を保存するもので、退色し平面化されたもので、見せるものや展示効果の高いものではない。そのために次のような点に留意して、展示効果をあげるようにした。

▼開幕式に続く展示解説のようす





▲アザミを知っていますか...?のコーナー

- ①おし葉標本が物語る「科学的な事実」は、人々を魅了するはずである。おし葉標本を素材として分布地理的事実を提示する。
- ②淡いグリーン系の色で統一した展示台を作成し、会場全体の色彩美を工夫する。
- ③写真・図表等の補助教材を活用し、文章等の表現内容は、小学校高学年を対象とする。
- ④おし葉標本1点1点には、できる限りサービス判カラー写真を添付し、日本列島でのおおまかな分布域を図示したカードをつける。
- ⑤自然保護の立場から、採集地は明示せず、小さな岐阜県白地図に●印で産地を表示する。
- ⑥各コーナーの代表種は、地上部全体の乾燥標本を使うなど、展示に強弱・波をつける。

《入館状況及び関連普及事業》

昨年の「御岳山は生きている」に引続いて、資料収集・調査研究活動を伴う「地域の自然紹介型」の特別展として企画・立案された。地味なおし葉標本が展示物であり、一般の利用入館が心配されたが、結果的には11,715名が来館し

▼まとめのコーナーのようす



▲北方寒地性植物の展示コーナー

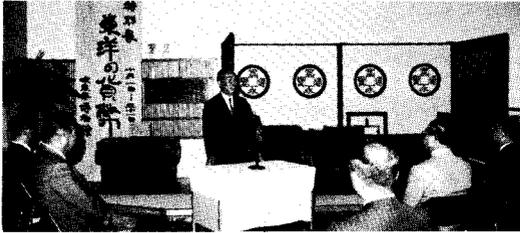
（御岳山は生きている-12,595名）まづまづであった。期間中8月8日には井波一雄氏を講師に迎え「ふるさとの植物地理」と題する講演会を開催、7月31日～8月1日には、白川村大窪のブナ原生林を主会場とした自然観察会を開催した。また自作スライド「岐阜県の森林」40コマ約10分、「高山植物」40コマ約10分を作成し、日曜映写会として上映し、また団体等の要望にも応じ随時上映した。入館者へ配布する「しおり」としては、岐阜県（環境保全課）が発行した「みんなの自然」の植物内容分を別刷で発行できたため、30ページの小冊子、カラー写真71枚使用の美しいものが配布できた。

マスコミ等からも好評で、地元岐阜日々新聞は、県内版4段かこみ60行、写真・図表等付で、見どころ、見学の視点、資料の裏話、解説等の案内記事を、会期中17回にわたって連載してくれた。同紙8月27日付編集余記でも「～県下の植物分布のナゾをさぐる岐阜県博物館のひたむきな努力を評価したい。」ともちあげてくれた。

▼白川村 大窪での自然観察会



(3) 東洋の貨幣 10月1日～31日



私たちが日常生活で使用している金（貨幣）の歴史を尋ねてみると、その貨幣にはその時代の歴史が刻みこまれており、当時の人々の生活の実態が映し出されていることがわかる。まさに「貨幣は生活の鑑である。」といわれるわけである。

つまり東洋の一角に位置するわが国の貨幣の源流を尋ねると、中国3000年余りもの昔の「貝貨」「刀貨」などにまで遡る。こうした貨幣は、売買の仲立ち、価値の尺度としての機能をもちつつ、円形に四角の穴を穿った「銭」の形となり、中国から朝鮮半島へ、あるいは東南アジアへと伝播し、各地で商業活動を円滑にした。わが国では中国貨幣を模倣した日本最初の鑄造貨幣「和同開珎」を発行、ついで中国の「永樂通宝」などの輸入を経て、世界最大の金貨「天正大判」をはじめ、小判・丁銀など貨幣経済の発展とともに、貨幣の変遷がみられた。

当特別展は、これら東洋の貨幣の源流・広がり、変遷を跡づける貨幣3000余点を展示し、そこから経済活動の基軸をなした貨幣と生活とのかわりを追求し、貨幣に対する興味関心を一層喚起してもらうことを意図した。

展示は、第1「東洋の貨幣の広まり」第2「江戸時代の貨幣」第3「国際化をめざす貨幣」の3つのコーナーに分け、当時の人々の生活とのかわりを総合的に把握できるようにした。

第1コーナーでは、東洋の貨幣の源流ともいふべき古代中国殷・周代に使われた貝貨や小刀・農具の形をした貨幣をはじめ、秦・漢代の円形に四角の穴を穿った貨幣などを展示した。さらにその伝統のもとに鑄造され続けた中国清代までの貨幣や、朝鮮半島での貨幣、さらに日本の「和同開珎」などを展示し、貨幣の広まりを跡づけた。金銭に関する漢字に貝の部首がつく

のもこの貝貨から由来していることを示す資料も展示した。

第2コーナーでは、江戸時代の貨幣を中心に、金銀銭貨や紙幣のように、日本独自の文化の中で生れた貨幣を展示した。戦国時代から江戸時代にかけて、金銀鉱山の開発技術がヨーロッパから伝来すると、各地の戦国大名らは競って軍資金を得るために開発に意を注いだ。豊臣秀吉は、その豊富な金で天正大判(約165g)を造り徳川家康は慶長大判をはじめ慶長小判(約18g)を造った。それ以降江戸幕府は山吹色の良質金貨を定量、定位の貨幣として流通させた。天正大判や江戸時代の各種大判が25枚、各種小判が44枚、さらに甲州金・分金類80点余りが展示された場所は、目もくらむほどの圧巻であった。これらの金貨と対比して、当時の庶民や大名らの金貨によせる資料も展示した。同様に金貨、銭などを多数展示し、鑄造の仕方や当時の物価・それに財布なども展示した。

また県内の藩（旗本）が財政窮乏のために発行した藩札や各地の商業活動を円滑にするために発行した宿場札、町村札、私人札などを展示した。これらの札の中には、「傘札」として有名な加納藩発行の藩札なども含まれている。

第3コーナーは、国内流通と国際貿易に対応するために、欧米の技術やデザインなどを導入し、また円銭厘の10進法に改められた近代的な貨幣を展示した。時代が下るに従って、実際に貨幣を使った人が多くなり、それぞれの人々が当時を思い出して話し合う光景がみられた。まさに「貨幣は生活の鏡である」といえよう。

開催期間27日のうち入館者は約21,000人へのほり、最盛期には展示室が満員になり、身動きできないほどであった。なおこれらの貴重な資料を展示するにあたり、資料の借用、返却時は言うまでもなく、展示期間中昼夜の別なく慎重な配慮をした。

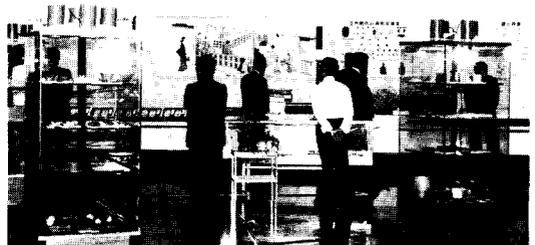
展示中の特別な催し物は、東海銀行貨幣資料館長鬼頭晴彦氏による「貨幣の歴史」と、岐阜大学教授松田之利氏による「美濃の諸藩と藩札」の講演会を開催した。いずれも100名前後の聴衆があり好評であった。

出 品 目 録

番号	資 料 名	点数	番号	資 料 名	点数		
1	皇朝銭	和同開珎・開基勝宝など	28	35	大判	蛭藻金・天正沢潟大判・慶長大判	25
2	鏝銭・種銭	開元通宝・永樂通宝・寛永通宝	59	36	小判	慶長・元禄・宝永・正徳・享保	44
3	江戸期銭貨	寛永通宝・宝永通宝・文久永宝	50	37	貝貨・魚幣	原貝貨・石製貝貨・魚幣・馨幣	22
4	丁銀・豆板銀	慶長丁銀・豆板銀・露銀	92	38	布幣	殊布当十新布・有耳布・方足布	26
5	古銀貨類	明和5匁銀・灰吹銀・切銀	36	39	刀幣・秦	三字刀・円首刀・蟻鼻銭・秦半両	26
6	幕末大型貨幣	天保通宝・文久貨泉・秋田鐔銭	18	40	漢～隋	八銖半両・大泉五十・隋五銖	23
7	幕末地方貨	米沢生産局・島田通用百文	11	41	北宋	宋通元宝・淳化元宝・治平元宝	72
8	尚古玩弄小判	子安小判・甲子大黒小判	15	42	南宋香銭・西夏	淳熙元宝・嘉定通宝・淳祐元宝	239
9	明治の金貨	2円半・5円・旧20円・新20円	15	43	元～明	至大通宝・洪武通宝・永樂通宝	36
10	近代の銀貨	貿易銀・1円・50銭・20銭	42	44	清	順治通宝・康熙通宝・太平天国	110
11	近代の硬貨	2銭銅貨・5銭白銅貨・1銭銅貨	41	45	高麗～季氏	三韓重宝・朝鮮通宝・常平通宝	134
12	造幣局試鑄貨	八咫50銭・10銭陶貨・合金貨	31	46	銭范・鑄銭遺物	和同開珎銭范・銭座砥石・るつば	134
13	明治通宝札	10円・5円・2円・1円・半円	14	47	鉱石・封印銀	砂金・金鉱石・包み銀・刻印	769
14	旧国立銀行券	5円・2円・1円	9	48	変形貨幣	印子金・馬蹄銀・開金碑	168
15	新国立銀行券	第11国立銀行5円・1円	7	49	各地の藩札	尾張藩・福井藩・赤穂藩・高知藩	120
16	政府紙幣	神功皇后10円・大蔵卿50銭原符	14	50	太政官札・県札	太政官札10両・堺県札金2朱	62
17	日銀兌換券	大黒10円・表猪10円・200円	42	51	鑄放銭	天保通宝・水戸虎銭・光緒通宝	7
18	日本銀行券	靖国神社50銭・聖徳太子100円	36	52	銭刀・千両箱	徳川家千両箱・銭刀(脇差)	55
19	証紙付紙幣	藤原鎌足200円・和気清磨10円	6	53	小判所絵巻物	佐渡小判造りの国	2
20	戦後の紙幣	聖徳太子100円・国会議事堂10円	14	54	財布	巾着・胴乱・大判入れ	22
21	朝鮮銀行券	朝鮮総督府印刷50銭・100円・10円	26	55	銭繒	青繒1貫文・わら繒4貫文	11
22	台湾銀行券	大日本帝国政府印刷局製造10円	11	56	藩・私札版木	金津藩・鳴海藩	27
23	満州中央銀行券	旗建物100円・5角・人物100円	22	57	両替屋屋台	帳場大算箆・天秤・そろばん	248
24	西郷札他	承恵社札1円・西郷札10円・5円	16	58	万両箱		1
25	日露戦争軍票	10円・5円・1円・50銭・20銭	12	59	錦絵・高札	造幣局・紙幣寮錦絵・高札	4
26	シベリア出兵軍票	1円・50銭・20銭・10銭	10	60	符合泉志版木		16
27	支那事変軍票	甲号券10円・5円・乙号券100円・10円	14	61	県内藩札	加納・高富・大垣・苗木・高山	32
28	東南アジア方面軍票	1ルピア・1グルテン・1ドル・1ペソ・1ポンド	58	62	県内旗本札	多良高木・岩手竹中	5
29	蒙疆銀行券	宮殿100円・らくだ100円・塔と城壁5円	12	63	県内宿場札	落合・中津川・大湫・御嶽	25
30	中国連合準備券	万里長城1,000用・多重塔と人物10円	32	64	県内町村札	中津川・釜戸・戸狩・高山	15
31	中央儲備銀行券	孫文500円・10,000円・5,000円	17	65	県内私人札	兼山・安保・曾我・上酒屋	23
32	偽造紙幣	太政官札金1両・明治通宝20銭	36	合 計		3,432	
33	甲州金	露1両・桐1分金・1朱金・2朱金	31				
34	分金	太閤円歩金・慶長1分金	52				

資料出品者

東海銀行貨幣資料館、鬼頭晴彦、篠田英、尾沢久志、日下部民芸館、平田記念館



5 資料紹介

(1) 郷土の偉人 梁川星巖

12月16日～1月30日

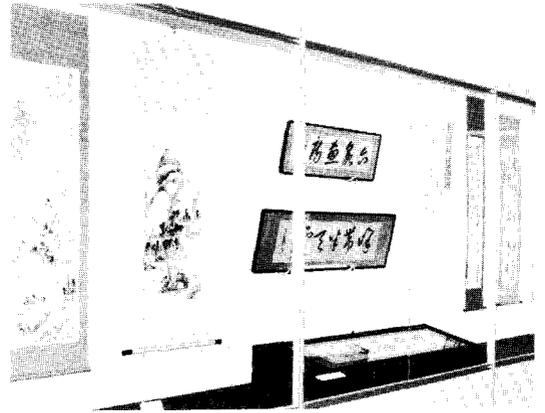
梁川星巖は、安八郡曾根村（大垣市曾根町）の郷土稲津家に生まれ、幕末期に詩人として、また勤王の志士として活躍した人物である。

本資料紹介展は、安八郡安八町氷取の石田鎌一氏より寄託を受けている資料の中から星巖関係資料を抽出し、選択を加えながら星巖の人物像を描き出そうと試みたものである。

展示は3つのコーナーに分け、星巖の遺墨と交流のあった人物の作品を配列し、構成した。

第1コーナーでは、漢詩学者として立ちあがった青・壮年期の星巖の紹介に努めた。華溪寺の住職に章句を学んでいた星巖が、江戸へ出て朱子学・漢詩文と本格的に取り組んだ青年期。32歳で張氏紅蘭を妻として以来、九州から関東の諸国を遍歴して学問を深めた壮年期と、次第に充実していったようすを遺墨で位置づけた。

第2コーナーでは、ペリー来航という幕末の激動期の中で、星巖が示した姿勢を紹介した。江戸の神田に玉池吟社を設け、多くの門人に教授をしていた星巖は、日本や中国の故事を引用しつつ、人の生き方や政治のあり方を詩文にして残している。その中より、ヨーロッパ諸国の



軍艦の来航に対して敏感に反応し、厳しく論調する作品のいくつかを掲げ、尊王攘夷論者としての星巖をうきばりにするように努めた。

第3コーナーでは、星巖と交わった人々を通して星巖に迫ってもらいたいと願いつつ、西郷隆盛、僧月照、梅田雲浜、横井小楠、頼山陽、小原鉄心などの作品を展示した。

開期中、多くの来館者より種々の御高評とともに、郷土の先人紹介の機会をより多くとの声を受けた。このことについては、今後の企画に反映させていきたいと考えた。

なお、今回の資料紹介展は、富永蝶如先生、浅野忍先生の御指導によるところが大であったことを付し、改めて感謝の意を表する次第である。

展 示 資 料 目 録

資 料 名	形 状	資 料 名	形 状
1 紙本墨書星巖筆文殊菩薩画讃	條 幅	22 紙本墨書星巖筆自警録中之一首	條 幅
2 " 普賢菩薩画讃	"	23 " 亀 鶴	"
3 " 山水画并讃	"	24 " 偶 成	"
4 " 山水之図	"	25 " 吉野懷古	"
5 " 六泉画房	額 装	26 " 吉野懷古	扇 面
6 " 峯常半天雲	"	27 " 癸丑六月聞夷船到浦賀惚然作絶句	折 本
7 " 天風海濤	"	28 " 春夜枕上	條 幅
8 " 偶成	條 幅	29 " 甲寅元日口號三首之一	"
9 " 舟夜夢帰	"	30 " 仰見城南	"
10 " 藍川舟中	"	31 " 生日不受賀賦詩以述懷	"
11 " 海上有大少鷺洲	"	32 " 頼山陽筆詠史一編	"
12 絹本墨書星巖筆題常盤抱弧図	"	33 " 村瀬藤城筆山王紅葉	"
13 紙本墨書星巖筆富士山	"	34 " 張氏紅蘭筆看梅	"
14 " 春雪大作詠史到夜半作長句	"	35 " " 菊之図	"
15 " 村舎雜吟	"	36 " 貫名海屋筆魚籃觀音図	"
16 " 神風行	"	37 " 小原鉄心筆読美濃法七絶	"
17 " 妄人非獸	"	38 " 梅田雲浜筆貫金石・鐸	"
18 " 読龍川集有感	"	39 " 横井小楠筆君主之道在修身	額 装
19 " 朝後暮吟	"	40 " 吉田松陰拓本土規七則	" 幅
20 " 漢文帝詩	"	41 " 僧月照筆和歌四首	條 幅
21 " 雜吟百首之一首	"	42 " 西郷隆盛筆別離七絶	"

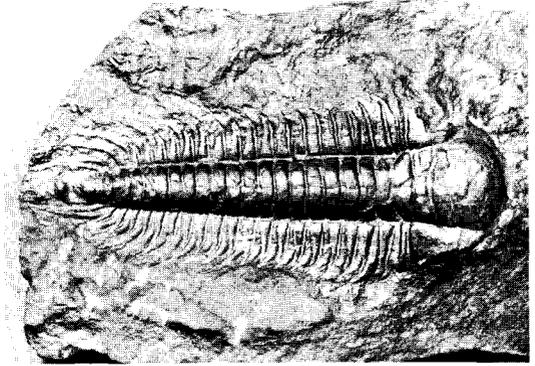
(2) 古生代の化石



当館では「郷土の化石」「化石の世界」と題して化石に関する特別展を開催し、いずれも好評であった。そこで今回は一歩進めて、生き物が地球上で活躍するようになった最初の時代、古生代に焦点をしぼり、この時代の地層から産出した各種の化石を紹介することにした。

45億年といわれる地球の歴史全体の中で、はじめの8分の7にあたる長い期間は先カンブリア時代といい、生命の記録が少ないが、残りの8分の1は地球上で生き物が栄えるようになった時代である。古生代はこのうちの前半にあたる約3億年のことで、ひとくちでいえば背骨のない殻をもったいろいろの動物が世界の海にひろがった時代である。この期間はさらにカンブリア紀（5億7000万年前）からペルム紀までの6つの時代にわけられる。

今回の展示コーナーはこれら6つの時代順に構成した。岐阜県は日本屈指の古生代化石産地をひかえている。今回紹介した資料には上宝村福地から近年発見された日本最古の化石（貝形類）をはじめサンゴ・三葉虫など、また大垣市



産の巻貝、二枚貝、オウム貝など各種、その他宮城県、高知県等国内産標本も加えた。さらに古生代を代表する化石「三葉虫」、古い型の魚類、は虫類などは北米大陸、ヨーロッパ、南米など世界各地から産出したすぐれた標本を含めて百数10点で、各コーナー別は次のとおり、

- カンブリア紀 三葉虫など20点
- オルドビス紀 筆石など 10点
- シルル紀 クサリサンゴなど10点
- デボン紀 ハチノスサンゴなど30点
- 石炭紀 四射サンゴなど30点
- ペルム紀 ベレロフォンなど40点

本来、入館者数の少い冬から早春にかけての淡季であったが期間中に8200名をこえ、熱心な利用者の質問が初日からとび出すといった活況であった。コレニア（藻類化石）は本当に生物起源なのかということ；近年では先カンブリア時代の化石もかなりくわしくわかってきた現状を答えた。次は中生代の化石を展示してほしいこと、手で触れることができるようにしてほしいなどの要望が多くよせられ、また化石の同定依頼なども加わり盛況であった。



6. 資料調査収集活動

(1) 人文部門

	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	その他	(寄贈物)			
考 古	1,454	201	45	(1,475)	620	175	2,495
歴 史	725	29	102	(712)	325	9	1,190
民 俗	602	0	0	(602)	0	0	602
美術・工芸	89	15	70	(81)	252	567	993
計	2,870	245	217	(2,870)	1,197	751	5,280

複製には模型・ジオラマを含む(昭和58年3月31日現在)

1. 資料寄贈者芳名一覧(敬称略・順不同)

資 料 名	点数	芳 名
縄文石皿、石鏃ほか	21	今井よしの
直刀(出土上古刀)	1	加藤 純一
磨製石斧、黒曜石	2	水野 瑞夫
須恵器、陶器類、布目瓦	352	飯沼 要
大垣藩札	3	鬼頭 晴彦
フィリピンにて使用 日本軍票	36	尾沢 久志
明治7年建設長良橋使用鎖	1	篠田 英
ヤソウマス(1合)	1	長倉 三郎
法隆寺経木片	1	清水 啓子
日清韓地図、日本地図(天保14年)ほか	44	鷺見 洋
岐阜今泉学校使用教科書ほか	4	中島 八郎
さおばかり、寺子屋手本ほか	6	須田 信保
舟(上げ舟)	1	田中 淳男
土人形、こきはしなど	10	新井 政和
脇差 銘正家作 拵付	1	田中 初
刀銘 美濃国関住桑山隆兼高	1	桑山 隆
謹作之(昭和55年2月吉日)		
茶釜	1	栗本 久造

2. 実物資料の購入

刀無銘 直江志津

3. 複製資料の製作

木造増長天立像

(木造四天王立像4体のうち1体)

館蔵資料紹介

● 木造増長天立像 (像高82cm)

本年度の仏像複製は、前年度までにすすめてきた持国天立像、広目天立像の製作に引き続き増長天立像を製作した。

これらの四天王像の原像は、岐阜市栗野の済法寺にあり、昭和41年度に県重要文化財の指定を受けている。

像は、いずれも寄木造りで、眼は玉眼となっている。ことに増長天は、甲冑に身を固め、左手で槍をたててつかみ、右手は腰にあてて肩を

いからせ、邪鬼を踏みつけて立っている。その姿は、南方を守護する神として、法にそむく者や侵入者に対峙する厳しさをみなぎらせている。

原像の製作年代は鎌倉時代の末期と思われるものである。



● 刀 無銘 直江志津 (長さ68.3cm、
反り1.8cm、目くぎ穴3個)

南北朝時代、多芸郡直江(養老郡養老町直江)の地で鍛刀した鍛冶集団がいた。これを直江志津と総称している。この直江志津の手にかかり作刀された刀を、今年度購入した。

直江志津の系譜をたどると、鎌倉時代末期の大和国手搔派の刀工兼氏に遡る。兼氏は相州の

名工正宗の十哲にかぞえあげられた名工として知られる。兼氏は、大和国から美濃国多芸郡志津(海津郡南濃町志津)に移住し、志津三郎を号して鍛刀しはじめた。この兼氏一門を志津、あるいは志津鍛冶という。一門はやがて直江の地に移住し、直江志津の名を残すこととなった。

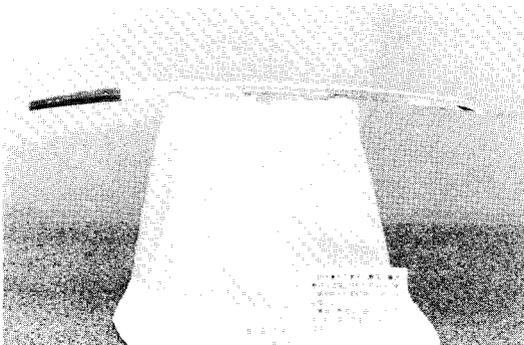
しかし、直江鍛冶の作刀期間は短かく、その作例も少ない。それは、直江の地も地形的に恵まれず、水害に見舞われたりしたため、再び赤坂や関に移住したからである。

直江志津の作刀は、身幅が広目で切先がのびる。反りは中間反りで浅い。刃文は互の目を主体とし、一部に尖った互の目を焼くのを特色とする。地鉄は板目に柾がまじってよく詰み、地沸がついた独得な鍛え肌をもつものである。

直江志津と称する作刀で、兼友、兼次などの在銘のものも存在するが、その多くは江戸時代に磨上げられて無銘となっている。

今回購入した刀も磨上げられて無銘であるが、直江志津の特質をすべて具備し、刀自体が疲れていないものである。それに直江志津は、大和手搔系の刀であるが、美濃国で独自の境地を開いた志津系に位置し、すでに館蔵となっている濃州赤坂住兼元のの刀と比較展示ができるということでも好ましいものである。

また、この刀には拵がついている。とりわけ古美濃彫鐔が拵全体をひきしめている。下に写真をもって紹介しておくことにする。



- 脇指 銘正家作（長さ1尺5寸4分、反り4分、目くぎ穴2個）

この脇指は、昭和57年12月17日、田中初氏（多治見市光ヶ丘5丁目）より寄贈を受けたものである。寄贈を受けた際、若干さびが出ていたため、研師伊佐地勉可氏の御厚意により研ぎ直しをしていただくことができ展示可能となった。

正家は、備後国（広島県の一部）に住んで作刀した鍛冶である。正家の初代は本国を備前といい、福岡一文字の末裔である唐河為遠の門人と伝えている。

正家と切る銘で、「正の字を草書体に切るのは初代、楷書で切るのは二代」と代別することができるという。この脇指銘は草書体で切られていることから初代正家の作（鎌倉時代）かと思われる。

なお、この脇指には拵がついている。

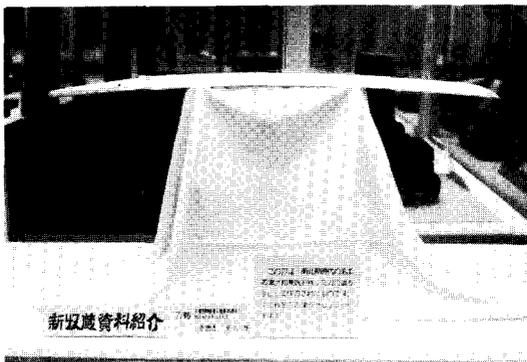


- 刀 銘美濃国関住桑山隆兼高謹作之、昭和五十五年二月吉日（長さ73.6cm、反り1.9cm、目くぎ穴1個）

この刀は、昭和58年3月30日、桑山隆氏（関市東新町2丁目）より寄贈を受けたものである。

桑山隆氏は、関鍛冶七流のうち善定派の流れをくむ兼吉（小坂金兵衛）の門下であった兼永（渡辺万次郎）の開く日本刀鍛錬塾に入門し、刀匠への道を歩んだ。太平洋戦争後は、岐阜県職員へと道を変えられたが、刀匠としてあつく燃える胸の火は消せず、余暇をみては鍛刀が続けられた。その中で生み出された作品のうち最良のものを今回寄贈いただいたものである。

この刀は、南北朝時代に志津三郎兼氏（「正宗十哲」のひとりといわれた名工）が作った刀に迫ろうとして作刀されたものである。（これを「志津うつし」という）刀のできばえは大変すぐれたものである。

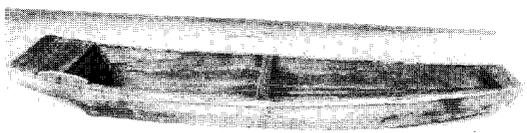


- 舟（上げ舟）（全長4.98m）

輪中地域においては、洪水時の避難用として舟が母屋の軒や水屋などにあげてあった。これを上げ舟という。今回、羽島市江吉良町の吉田紀夫氏、田中淳男氏より寄贈を受けた上げ舟は従来田中家の水屋にあげてあったものであるが、昨年田中家改築にあたって吉田氏に移管されていたため、両氏よりの寄贈として表示した。

この舟の製作年代は明確ではないが、明治時代に作られたと同家では伝えられており、破損虫害も少なく、良質のものである。

舟の側面には「免税」と焼印が押され、生業に用いられていなかったことを語っている。洪水時の避難用であるため、田舟として生業に用いられるものより一まわり大きく作られている。この上げ舟を通して輪中地域に住む人々の洪水に対する意識とともにくらしぶりの一端をうかがい知ることができ、貴重な資料である。



(2) 自然部門

	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	移管・自作 その他	寄 贈 (内 数)			
動 物	17,757	41	173	(7,943)	15	0	17,986
植 物	2,529	25	168	(1,601)	0	0	2,722
岩石・鉱物	1,180	5	71	(380)	20	3	1,279
化 石	1,420	35	19	(811)	48	19	1,541
その他	57	22	143	(15)	0	0	222
計	22,943	128	574	(10,750)	83	22	23,750

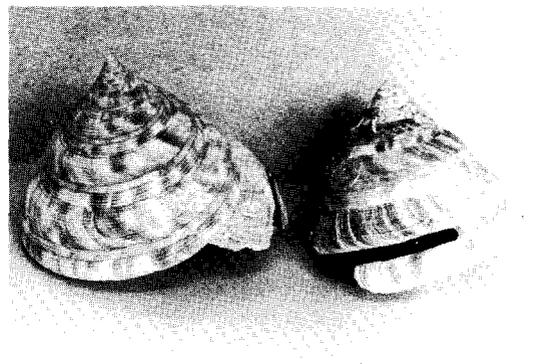
複製には模型・ジオラマを含む（昭和58年3月31日現在）

1. 資料寄贈者芳名一覧（敬称略・順不同）

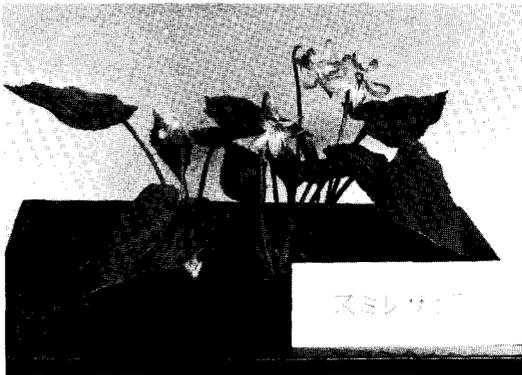
資 料 名	点数	芳 名			
ヌートリアへい死体	1	細川 務	キアシナガバチの巣ほか	2	山下 春三
キクガシラコウモリほか	6	宮尾 嶽雄	アカアシクワガタ	2	安藤 彰八
ケリの幼鳥へい死体	1	武仲 美樹	ヤマトアラレナガニシほか	107	細井 健一
トンボ標本とスライド	56	村瀬 文好	ウグイスへい死体	1	落合 智美
ブラックバス	1	伊藤 勝己	アオゲラへい死体	1	伊佐治要衛
ボラほか	7	横山 信義	ゴイサギ幼鳥へい死体	1	小林 勉
ラプラタリングガイ殻と卵	4	呉 佳祿	アマゴ	2	和田 弘
カタヤマガイほか	70	宮崎 惇	イワナ	1	山本 和男
ナマズ（アルビノ）ほか	222	桜井 和雄	ハゲギギ	1	尾藤 郁男
マムシ	1	服部 広敏	アユ	2	畑佐 直次
ホソスジシラナミガイ	1	土田 幸男	ウグイほか	64	増井 政夫
ベニオキナエビス	2	大瀬良里奈	カワヨシノボリ等	58	加藤 昭行
カナヘビ	1	山森 和彦	オイカワ等	182	後藤 正
			アユ奇形	1	金谷 敏彦



エイザンスミレ



資料名	点数	芳名		点数	
コイほか	38	海津漁協	フィリピンの貝	67	エレナ・カンボス
ヒガイほか	17	長良川中央漁協	シロハラ	1	桂井 恒安
カムルチー	1	遠藤 利雄	ミカドギセルほか	116	大橋 健
ウグイス	1	篠田 浩之	カブトエビ	2	近藤 章二
ウナギほか	14	勝連 匡美	カラスガイ	2	三田 幸二
オオサンショウウオへい死体	1	郡上漁協	ヒメギフチョウほか	43	河田 勝美
特製ドイツ型標本箱	10	熊田 国男	モクズガニ	2	古田 栄一
オオムラサキほか	526	高 鷲 村	ハクビシン	1	足立 重雄
コミミズクへい死体	1	宮野 昭彦	ボウスイチュウチャート	1	山田 和美
キジバト	1	高木 豊	四射サンゴ	1	森 学
ほ乳動物骨片	33	広江 憲弘	輝水鉛鉱	1	淵上亀代雄
コウモリの一種	1	和田 匡弘	小型巻貝化石	41	浅見 昭子
ヌートリア	1	高島 純	二枚貝化石	2	細野 明德
ホントタヌキ剥製標本	1	中島 茂樹	岐阜県産古生代化石	140	種蔵 泰一
ウシの胎児	1	間島 泰之	ブラジル産大型魚類化石	1	原 松寿
		長沼 悟	アマゾナイトなど鉱物	6	原 松寿



2. 化石資料の収集

大野郡荘川村地域南西部に分布する前期白亜紀の植物化石の収集作業を実施した。

尾上郷地域からは手取植物化石（シダ・ソテツ・イチョウなど）を多く産するが年々森林伐採、土木工事などのため良質の標本採取が困難になっている。

今回は尾上郷川中流の河岸沿いの露頭を中心に70点余を収集したが転石中から大型標本が見つかるなど予想外の成果を得ることができた。

収集指導の東京学芸大学・木村達明教授に中国科学院古生物研究所の李星学教授がたまたま同行され飛騨山地の紅葉の中での採集に感慨深げであった。

3. 実物資料の購入・複製製作など

資料名	点数
キバナシヤクナゲ	1
ハクサンイチゲ	1
スミレサイシン	1
ナガバノスミレサイシン	1
サクラスミレ	1
エイザンスミレ	1
ナガバノタチツボスミレ	1
オオバクスミレ	1



4. 常備展示構成充実準備調査

自然展示室1・2各室の展示内容を、最新の調査研究成果をふまえてこれをわかりやすく普及するように各コーナーの内容に関係する諸資料の調査を行なっている。展示資料の覧的・量的な充実を期すため、前年度に続いて現地調査実物・写真・文献等の各資料の収集を行った。

各分野の成果の概要は次のとおりである。

地学分野……………大野郡白川村大白川～平瀬地区の濃飛流紋岩と白川花崗岩調査。

山県郡美山町伊往戸地区の植物化石調査。

恵那郡上矢作町の領家帯花崗岩類の調査。

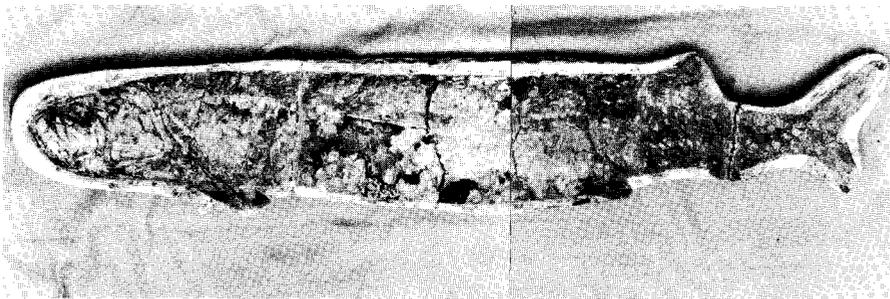
揖斐郡春日村美東地区の接触帯調査。

大野郡丹生川村東部の大雨見山層群。

動物分野……………郡上郡高鷲村蛭ヶ野の蝶と蛾
長良川流域の昆虫類・魚類・鳥類、大野郡朝日村青屋の昆虫類及び県内のトンボなどの標本の収集と生態調査。

植物分野……………県内各地から、岐阜県の植物分布地理区を特色づける植物標本の収集（ミツバツツツ類・モクレン科植物・タンポポ類及び日本固有植物群、北米

と共通する植物群など）及び植物生態写真の撮影、生態調査。



7. 教育普及活動

(1) 概 略

博物館における教育は、展示物をして語らしめるところにその中心があるといえる。しかし一般の観覧者してみると、ものに接しただけでは十分な理解を得ることは、必ずしも容易なことではない。そこでは当然による教育普及活動が行われなくてはならない。展示と密接な関連性を持つところに教育普及活動の特色があるといえる。昭和57年度も同様、多くの催しものを企画実施した。56年度に比して8教室多く実施して、広く県民との結びつきを濃くしたといえよう。

● 講演会及び各教室等

特別展の基調講演会3回、人文、自然教室19回、体験学習会2回、そして夏休み学習相談と計23教室の催しものを実施した。その中で、新設活動について述べてみる。

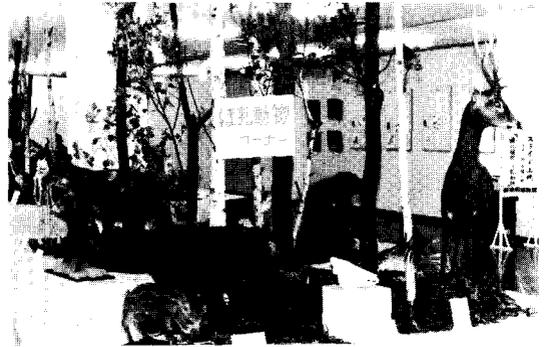
新規教室に人文移動教室、自然移動教室がある。マイクロバスをしつらえ、総勢25名で人文は高賀山六社めぐりを行い、自然は各務原台地から可児市土田、菅刈地区にみられる地質めぐりをした。新しい試みであったが、多くの人から好評を得た。

あるいは、子ども考古教育、岐阜県の歴史教室、夏休み学習相談も新規の教育であった。

岐阜県の歴史教室は、古文書を読みながらの学習でもあり、年輩の人々の参加を得たことは特筆すべきことであろう。夏休みの学習相談では、児童生徒の夏休み研究のすすめ方、まとめ方の相談に応じた。気軽に相談に応じ、なおかつ学校で指導された内容を生かした相談を大切にたした。その他、講習会、人文教室、自然教室、自然観察教室、体験学習会など、どれも定員に達する参加者を得ることができ、主催者側として満足すべきものであった。

● 移動展

これからの博物館が、ひらかれた博物館として発展していかなければならない課題がある。そういった中で、高山移動展、大垣移動展が成功できたことは、岐阜県博物館の一つの方向を示唆するものではないかと思う。



両会場とも、帰化植物とふるさとのほ乳動物を展示した。特に子どもたちに人気があり盛況であった。

高山市立図書館、大垣市立文化会館には格別のご援助をたまわったことに敬意を表すのであります。

● 郷土学習室の充実

郷土学習室が、いわゆる郷土を学習する部屋として機能する一方、子どもたちが気軽に調べる学習室として内容を充実させた。

その一つとして、はく製動物のジオラマコーナーの作製がある。スペースが必ずしも十分なものではないが、動物と小鳥と配し、3か月ごとに動物を取り替えるなど変化をもたせた。また標本ケースの表に標示ラベルをイラストで示す学習室へ充実させていきたい。



(4) 新規採用教員研修

57年度は、美濃教育事務所管内の新採研修と高等学校新採研修が当館で7月(高校)10月(美濃)に実施された。学校教育と博物館の関連を深めることを意図し、博物館の概要説明はもとより、見学、さらには、小中学校教員諸氏には博物館展示内容と学習指導要領との関連を示

した資料を配付して、学習指導案を各自作成してもらった。高校教員には感想文を提出してもらい、研修内容を豊かにした。

● 出版物

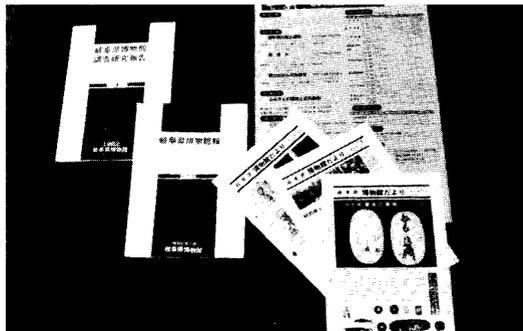
岐阜県博物館報・第5号、岐阜県博物館調査研究報告・第4号、岐阜県博物館だより・No.17～No.19を刊行した。

● 広報活動

小・中・高の校長会、郡市の小中教頭会、社会教育担当者主事会等において団体利用の依頼をした。県の広報媒体を通じての広報、NHK、岐阜放送、各新聞社を通じての広報。あるいはチラシを各文化施設、十六銀行の窓口などへ配布しPRに努めた。

● フレンドの会の発足

数年来の懸案であった、友の会の発足の基になる「フレンドの会」が、8月発足した。会員は趣旨に賛同してもらった50名をもってスタートした。8月8日の講演会の後、30名の出席を迎え、館長の挨拶のあと、教育普及係長の趣旨説明、意見交換などをもち会の発展に期待した。その後、10月、3月と3回の会を持った。



会の世話役に関市の熊田光久氏を選び、お忙しい中会のためご尽力いただいたこと敬意を表し付記する。

(2) 教育普及活動

1. 各種講演会及び各教室の参加人数表

昭和57年度 教育普及活動 各講演会・教室参加人数

	月 日	教室名	テーマ・内容	講 師	対 象	参加人数	備 考
人文関係	5. 2	人文移動教室	奥美濃の高賀山六社めぐり	当館学芸主事 横山 泰	一 般	23	
	9	講 演 会	高賀山の信仰	前県郷土資料研究協議会長 船戸政一	一 般	100	
	10.11	"	貨幣の歴史	東海貨幣研究会長 鬼頭晴彦	一 般	95	
	31	人 文 教 室	美濃の諸藩と藩札	岐大助教授 松田之利	中学生以上・一般	60	
	5.16	歴 史 教 室	古文書を読み歴史をさぐる	当館学芸主事 西村悦良	"	37	
	7.18	"	"	"	"	37	
	9.19	"	"	"	"	16	
	11.14	"	"	"	"	16	
	8. 5	考 古 教 室	石器 土器の話	当館学芸主事 徳松正広	小・中学生	12	
	12	"	"	"	"	43	
19	"	拓本のとり方	"	"	17		
自然関係	5.30	自 然 教 室	陸貝の生活	日本貝類学会員 宮崎 惇	中学生以上・一般	43	
	6.27	"	みずなみの海	名大助教授 糸魚川淳二	"	58	
	8. 8	講 演 会	ふるさとの植物	井波植物研究所長 井波一雄	一 般	128	
	11. 7	自 然 教 室	天然記念物	岐大名譽教授 堀 武義	中学生以上・一般	43	
	8. 1	自 然 観 察 会	白川村大窪地区・自然観察	当館学芸主事 小野木三郎・宮野伸也	小・中学生・保護者	48	
	11.14	自然移動教室	美濃の地質めぐり	当館学芸主事 笠原芳雄	"	33	
	4.29	自然観察教室	百年公園の植物しらべ	当館学芸主事 小野木三郎	小・中学生	45	
	7. 4	"	百年公園の昆虫しらべ	当館学芸主事 柴田佳章	"	31	
10.17	"	津保川の水生昆虫しらべ	"	"	25		
11.21	"	百年公園の植物しらべ	当館学芸主事 小野木三郎	"	31		
教育普及	8.22	体 験 学 習 会	竹細工づくり	石原文雄	"	40	
	12.19	"	しめなわづくり	大野仁久	"	49	
	7.27-29	夏休み学習相談		当館学芸主事 担 当	"	26	
	8.25・26	"		"	"	6	

2. 日曜映画会 (16mm・スライド・VTR)

期 間	題 名	観 覧 者 数
4月25日～5月31日	奥美濃の風物・百年公園と博物館・岐阜の一世紀 高賀山の信仰(スライド)・刀匠	1,082
7月28日～9月5日	百年公園と博物館・伝統産業・ライチョウ・伝統工芸 博物館で働く人々(スライド)・岐阜県の森林(スライド) ・高山植物(スライド)	1,251
10月1日～11月23日	百年公園と博物館・揖斐茶・和ロウソク・伝統産業 水郷の春・郡上本染・東洋の貨幣(スライド)・日本の 貨幣(VTR)・美濃の藩札(スライド)	2,224

3. 昭和57年度 岐阜県博物館刊行物一覧表

	名 称	発行年月日	版・頁	部 数	備 考
昭 和 57 年 度	岐阜県博物館だより 第17号	57.4.1	B5 4頁	2,000	
	〃 第18号	57.7.1	〃	2,000	
	〃 第19号	57.10.1	〃	2,000	
	岐阜県博物館報 第5号	57.7.1	B5 31頁	1,500	
	岐阜県博物館調査研究報告 第4号	58.3.31	B5 61頁	1,000	
	昭和57年度岐阜県博物館催し物案内	57.4.1	B5	15,000	
	特別展リーフ 高賀山の信仰	57.4.10	A6	23,000	
	ふるさとの植物	57.7.6	A5 60頁	12,000	
	東洋の貨幣	57.9.8	B6	20,000	
	特別展示録 高賀山の信仰	57.4.21	B5 32頁	400	
特別展ポスター 高賀山の信仰	57.4.10	B5	1,500		
ふるさとの植物	57.6.15	A2	1,500		
東洋の貨幣	57.9.6	B2	1,500		

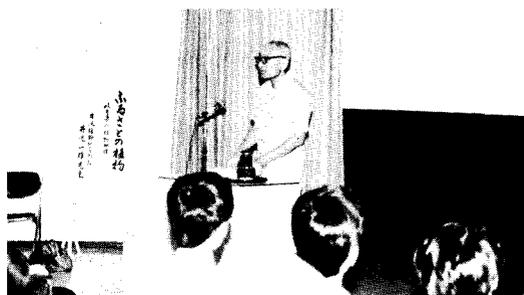
4. 教育普及活動のナップ

23種類の博物館教室(講演会を含む)を実施することができた。どの教室も盛況であり、参加者の学習意欲を十分うかがうことができるものであった。熱心にメモする人、つきない質問、終了後も熱心に尋ねる人、あるいは物を持参して来て尋ねる人等々、こういった熱心な参加者の姿を見るにつけ、企画担当者として、これらの催しものを通じて県民一般の人々と博物館とが接近していくのではないかと思うことがしばしばであった。以下、活動ナップの数々を載せてふりかえてみることにする。

★ 特別展 ふるさとの植物 講演会

8月8日 講師：井波一雄氏

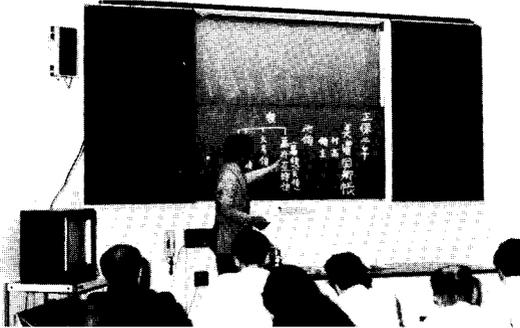
約130名の聴衆を前に自分の目とからだで事実をたしかめよと力説された。



★ 岐阜県の歴史教室 5月16日

指導者：西村覚良（当館学芸主事）

4回シリーズで、古文書など史料の解説をしながら美濃を中心に歴史をさぐる。古文書ブームもあって老人の方の参加が目立った。



★ 夏休み学習相談 7月、8月

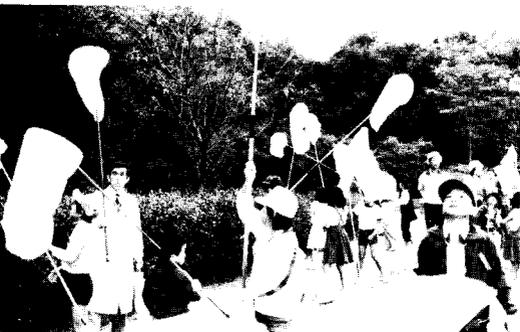
当館は、自然系、人文系の博物館として、子どもにも親しまれている。展示資料に一層の理解と関心を期待しながら、子どもたちの自由な質問に応じた。



★ 自然観察教室 10月17日

指導者：柴田佳章（当館学芸主事）

当教室は4月、7月、10月、11月の4回実施した。4月と10月は植物観察（担当：小野木三郎）7月、11月は昆虫観察。親子づれで好評。



★ 自然移動教室 11月14日（日）

指導者：笠原芳雄（当館学芸主事）

秋の行楽日、マイクロバスで館を出発、各務原台地から美濃加茂市、可児市と代表的地層を説明を聞きながら見学した。



★ 体験学習会 8月22日（日）

講師：石原文雄氏（公務員）

「竹細工づくり」竹で鳥、水鉄砲、竹トンボ、など、おもちゃを作って楽しんだ。



★ 体験学習会 12月19日（日）

講師：大野仁久氏（団体職員）

日本古来の伝統行事「しめなわづくり」に挑戦した。しめなわの由来、種類など話を聞きながら、親子いっしょに慣れない縄ないに苦勞した。

(6) 寄贈図書一覧(順不同) (昭和57年4月1日～昭和58年3月31日)

【博物館関係】

埼玉県立博物館
栃木県立博物館
国立民族博物館
名古屋市博物館
千葉県立総南博物館
埼玉県立民俗文化センター
船橋市郷土資料館
瑞浪陶磁資料館
鹿児島県明治百年記念館
浜松市博物館
日本博物館協会
小松市博物館
北九州市立自然史博物館
富山市科学文化センター
蒲郡市郷土資料館
少年科学センター
青森県立郷土館
岩手県立博物館
静岡市立登呂博物館
千葉県立安房博物館
徳島県博物館
鳥取県立博物館
紙の博物館
国立科学博物館
平塚市博物館
飛鳥資料館
日本はきもの博物館
浦和市立郷土博物館
神奈川県立博物館
北見市立北見郷土博物館
根岸競馬記念公苑
北海道開拓記念館
石川県立郷土資料館
仙台市博物館
富士市立博物館
愛媛県立博物館
群馬県立歴史博物館
国立科学博物館付属自然教育園
富士ビジターセンター
藤原自然科学館
大阪市立自然史博物館

大田区立郷土博物館
久留米石橋美術館
秋田県立博物館
福井市立郷土歴史博物館
埼玉県立歴史資料館
東北歴史資料館
豊橋市美術博物館
愛知県陶磁資料館
全日本博物館学会
岐阜県歴史資料館
京都国立博物館
千葉県立大根博物館
鹿児島県立博物館
岡山県立博物館
東京都高尾自然科学博物館
大阪市立博物館
北海道立三岸好太郎美術館
山口県立山口博物館
八王子市郷土資料館
北九州市立歴史博物館
国学院大学考古学資料館
東郷青児美術館
佐賀県立博物館
千葉市加曾利貝塚博物館
福岡市立歴史資料館
関西大学考古学資料室
石川県美術館
沼津市歴史民俗資料館
瀬戸内海歴史民俗資料館
奈良県立民俗博物館
東京国立博物館
市立名古屋科学館
日本モンキーセンター
瀬戸市歴史民俗資料館
南山大学人類学博物館
リトルワールド
奈良県立橿原考古学研究所
天理参考館
山梨県立美術館
群馬県立歴史博物館
豊橋地下資源館
明治村

鉄斎研究所
釧路市立郷土博物館
白鹿記念酒造博物館
山形県立博物館
埼玉県立さきたま資料館
渋谷区松濤美術館
斜里町立知床博物館
長野市立博物館
熊本市立熊本博物館
日立市郷土博立館
和歌山県立記伊風土記の丘資料館
憲政記念館
福井市郷土自然科学博物館
たばこと塩の博物館
沖繩県立博物館
土岐市美濃陶磁歴史館
神戸市立博物館
瑞浪市化石博物館
滋賀県立琵琶湖文化会館
佐賀県立九州陶磁文化館
檜原市千塚資料館
藤原岳自然科学館
小山市立博物館
尾崎市立田能資料館
京都府立山城郷土資料館
熱田神宮宝物館
大町山岳博物館
愛知県文化会館
くすり博物館
静岡県博物館協会
常滑市民俗資料館
京都府立総合資料館
若狭歴史民俗資料館
京都府立丹後郷土資料館
致道博物館
千葉県立上総博物館
霊山顕彰会
相川郷土博物館
青邨記念館
佐世保市文化科学館
国立近代美術館
長崎県立美術館

須賀川市立博物館
尾鷲市立中央公民館郷土室
久能山東照宮博物館
市立函館博物館

【教育委員会関係】

弘前市教育委員会
愛媛県教育委員会
春日井市民文化センター
福生市教育委員会
沼津市役所
福島県教育庁
浜名郡可美村教育委員会
静岡県教育委員会
教育庁文化課
広島市教育委員会
世田谷区教育委員会
名古屋市教育委員会
東京都教育庁文化課
鹿児島県教育委員会
長崎県教育庁
京都府立教育庁
佐久間町教育委員会
愛知県教育委員会
松山市教育委員会
北上市役所
神奈川県教育庁
川崎市教育委員会
滋賀県庁文化財保護課
相模原市教育委員会
岡崎市役所
川越市役所
美濃教育事務所
岐阜県文化財保護協会
福岡町教育委員会
恵那市教育委員会
中津川市教育委員会
加茂教育事務所
可児市教育委員会
古川町役場
東濃教育事務所
岐阜県教育センター
東白川村役場
岐阜県教育委員会
土岐市役所

糸貫町役場
輪之内町教育委員会
岐阜市教育委員会
板取村役場
洞戸村教育委員会
神岡町教育委員会
川島町役場
久々野町教育委員会
白川町教育委員会
関ヶ原町教育委員会
萩原町教育委員会
朝日村役場
墨俣町教育委員会
上之保村教育委員会
大垣市教育委員会

【学校関係】

岐阜大学教育学部
青墓小学校
多治見工業高等学校
国学院大学博物館学研究室
武儀高等学校同窓会
岐阜県高等学校生物教育研究所
明治大学学芸員養成課程研究室
加茂高等学校
聖徳短期大図書館
市邨学園
愛知大学文学部
松枝小学校
立教大学学芸員課程
岐阜薬科大学
金華小学校
中部女子短大
池田小学校
土岐北高等学校
八幡中学校社会科研究会
宮内庁書陵部
岐阜県立図書館
安八町中央公民館
養老町中央公民館
羽島市立図書館

【研究機関】

奈良国立文化財研究所
元興寺文化財研究所
名古屋営林局

アイヌ無形文化伝承保存会
飛騨郷土学会
日本実生研究会
東京都埋蔵文化財センター
民具製作技術保存会
岐阜県水産試験場
不破郡教育振興会
東京貝類同好会
日本常民文化研究所
尼崎市立文化財収蔵庫
岐阜県工業試験場
御正作遺跡発掘調査概報資料刊行会
東京国立文化財研究所
地質調査所
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所

【個人】（敬称略）

佐藤 正孝	伊藤 洋輔
宮尾 嶽雄	前橋 均
宮崎 惇	三輪 年朗
鬼頭 晴彦	井戸 惣一
大岡 明臣	加藤 卓夫
梶浦 敬一	丸山 竜平
石田 鎌一	中川 成夫
西野 機繁	奥村 潔
金古 弘之	古川 のぶ
香田 寿男	大久保 甚一
三尾 和広	西村 重則
下山 明	杉田 安巳
奥原 豊一	和田 集
川崎 立夫	渡辺 浩
山田 勝弘	西村 宏一
渡辺 精市	木島 泉
山本 たつ	谷口 順三
後藤 正	尾関重之介
篠田 鴨之	林 芳男
渡部 芳郎	菅田 一衛
青木彌太郎	山本 敏子
加知 伴三	市原 信治
鷺見愛剣堂	浅野 忍
鷺見恵美子	